

久保田克博 研究員

兵庫県は国内有数の恐竜化石産地です。2006年8月に丹波地域では初となる恐竜化石が発見され、盛んに研究が進められていることを以前の記事でご紹介しました。今回はもう一つの産地である淡路島・洲本市の恐竜化石についてご紹介します。

ました。



その発見は04年5月にさかのぼります。化石愛好家の岸本眞五さん（姫路市在住）はアンモナイト化石を求めて洲本市内に露出した和泉層群北阿万層という地層を調査していました。この地層は海に堆積した恐竜時代最末期（白亜紀末）のもので、その時代には皆さんがご存知のティラノサウルスやトリケラトプスなどが繁栄してい

ました。岸本さんはその地層から奇妙な化石を発見しました。初見では木材に二枚貝が潜り込んだ状態で化石化したものと考えたそうですが、よく観察するとそれがアゴの一部と分かったそうです。その後、当館の研究員により恐竜化石と確認されました。これが関西初となる恐竜化石発見の瞬間です。同月には当館と協働で2回の調査が行われ、追加の化石が採集されました。05年、この化石は植物食に特化したハドロサウルス科という恐竜の中でもランベオサウルス亜科というグループのものとして発表されました。

この発表から16年が経過し、当



洲本市から発見されたヤマトサウルス・イザナギの化石

時では少なかったハドロサウルス科の情報が世界各地で蓄積されていきます。それに基づき、この化石の新たな研究結果が21年4月に発表されました。この恐竜化石が歯や歯の並びが他の恐竜化石と異なることから新属新種とし、「ヤマトサウルス・イザナギ」と命名したのです。「ヤマト」は古代日本国家を示す「倭」、「サウルス」は「爬虫類」、「イザナギ」は日本神話に登場する「伊弉諾」

を意味しています。

加えて、ヤマトサウルスが原始的なハドロサウルス科であること、肩や前肢の進化がハドロサウルス科の繁栄に関係していること、ハドロサウルス科の繁栄がアジアで始まったことなどが指摘されました。この成果は化石愛好家の熱心な活動が発端となったもので、ナショナルジオグラフィックの「2021年に発見された驚異の新種恐竜10選」に挙げられるほど世界的に注目されました。今後はヤマトサウルスとともに発見された植物化石をはじめ、海で繁栄していたモササウルス類や首長竜類などの化石の研究を促進させることで、恐竜時代最末期の沿岸域の環境を探る手掛かりになると大きな期待を寄せています。



ヤマトサウルスの詳細はこちら

ひとく
研究員
だより

恐竜化石

海の堆積物から発見